

総務文教常任委員会審査概要報告書

委員長 酒井 善広

- I 開催年月日 令和 2 年 11 月 18 日（水）
II 会議時間 午前 10 時 00 分～午前 10 時 36 分
III 出席委員等〔出席委員〕◎酒井 善広 ○横田 誠二 高瀬 充子
本田 利麻 中村 清志 上田 武
曾田 康司 中川 加津代 畠 起也
（◎…委員長 ○…副委員長）
〔説明員〕 別紙名簿のとおり
〔委員外議員〕 なし
〔事務局職員〕 松本 武司 関本 尚彦
〔傍聴者〕 なし

IV 審査の概要

1 報告事項について

〈 当局から、次の報告・説明があった。 〉

〔総務部〕

- (1) 令和 2 年度高岡市職員採用試験の概要について
- (2) 令和 3・4 年度 高岡市建設工事等入札参加資格申請について

〈 委員から次の質疑があった。 〉

（ 以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示 ）

【職員採用試験について】

- 土木技術職について、第 3 期試験までで必要人員を確保できなかったとのことであるが、その理由は。
- △ 建設需要の増加などにより、人材が民間に流れていることや職業の多様化による土木離れということも理由にあると考えている。本市だけではなく、県や他の自治体においても土木技術職の確保には苦慮していると聞いている。
- 第 4 期試験で必要人員を採用できる見通しは。
- △ 新聞報道によると大卒の就職内定率はかなり落ちている状況にあることから、市

役所にも目を向けてもらえる可能性はあると思っている。また、第4期の試験日は、令和3年1月17日であるが、一昨年の同時期に行った試験では、何人かの応募があった。この時期の試験では、例えば大学院への進学から就職に切り替えた方、また、県外の民間企業に勤務していたが、年末年始に帰省した際、ご家族と話をする中で、地元で働きたいと思われた方等の受験を期待している。

〈 当局から、次の報告・説明があった。 〉

〔教育委員会〕

○ 高峰譲吉博士所蔵品展示会及び記念フォーラムの開催について

〈 委員から次の質疑があった。 〉

【記念フォーラムの出演者について】

○ 記念フォーラムの基調講演及びパネルディスカッションにおける出演者は。

△ 現在、NPO法人高峰譲吉博士研究会と最終調整中であり、確定後、発表させていただきたい。

2 その他

〈 委員から次の質疑等があった。 〉

【高岡市美術館の入館者増加に向けた対策について】

○ 目玉企画のドラえもん展が終了して以来、入館者数が減少傾向にあるが、経営改善に向けた取組みも併せて検討がなされているか。

△ ドラえもん展については、平成29年度末から30年度初にかけて開催し、5万人を超える来場者があった。ドラえもん展のような全国的な巡回展については、大変人気が高く大きな集客効果が期待できる一方、開催時期の調整が困難であること、また、開催費用が高額であるといった課題もある。ただ、知名度や人気のある企画展の開催は、美術館に気軽に訪れていただくきっかけになる効果もあると認識している。令和元年度は2万人を超えるご来館をいただいたアルフォンス・ミュシャ展、2年度は歌川広重展を開催している。また、美術館においては、地域の特性を生かした企画展の開催などを通じ、地域の文化振興の拠点としての役割も期待されているものと承知しており、高岡の伝統工芸である金工や漆工作品など、高岡市美術館独自の展覧会を開催しているほか、市民美術展やクリエイティブ高岡など、教育機関や関係団体とも連携しながら地域の文化活動を支援する取組みを積極的に行っている。今後は、若年層や家族連れにも気軽に訪れていただけるよう、人気のある企画展やワークショップ、トークイベントの開催のほか、他の文化施設や地域イベント等との連携について検討し、入館者の増につなげたい。

【防災情報メールについて】

- 緊急時に住民の対応が遅れることがないように、庁内の連絡体制を迅速化するなどの対策を講じ、速やかに発信すべきと考えるが見解は。
- △ 市の防災情報メールは、気象情報や避難情報、クマやイノシシなどの目撃情報などを配信し、これらの注意喚起により、市民に次の行動を促す情報伝達手段の一つと考えている。このことから、災害の危険性が高まったときは、気象や河川の状況に応じて、あらかじめ定めた市の警戒体制基準に基づき、災害対策本部等を設置し、市民が安全に避難できるよう、防災情報メールや防災行政無線などの情報伝達手段を活用し、速やかに避難情報の発令などを行っている。また、クマやイノシシなどの目撃情報については、現地における目撃情報の内容確認後の情報発信となることから、時間が経過した情報となっている。引き続き、関係課と連絡体制を密にして情報発信の迅速化を図りたい。

【高岡市芸術文化オンライン発信支援事業について】

- 高岡市芸術文化オンライン発信支援事業の実績と成果は。
- △ オンライン発信支援事業については、個人で2件、団体で15件の申請があり、補助金として、交付額159万5,000円を支出している。バンドやコーラス、胡弓、日本舞踊など多様なジャンルから応募があり、その内容についても郷土民謡やふるさと高岡を演奏合唱したもの、音楽と朗読を組み合わせたものなどがあつた。また動画の背景に高岡の名所を取り入れたものなど、それぞれに工夫が見られる動画作品を提出いただいた。コロナ禍で発表の場が減少したアーティストの方には、オンライン上での発表の場、動画による発信のきっかけづくりを提供できたものと考えている。また、視聴いただいた方には、動画を楽しんでいただいたと同時に、高岡で活躍するアーティストをご紹介します良い機会になったのではないかと考えている。現在、著作権の確認が済んだ作品から順に、文化創造都市高岡のYouTubeチャンネルで配信しており、これまでに4,000回を超える視聴をいただいている。
- 団体、個人数が増えかなり増えており安心している。コロナ禍により芸術文化の発表の場が少なくなっていることから、しっかりと支援をお願いしたい。(要望)

【富山県知事選挙における開票遅れについて】

- 令和2年10月の富山県知事選挙における開票遅れの原因と今後の対策は。
- △ 開票に時間を要した要因は、新型コロナウイルス感染症対策として、これまで県知事選挙では使用してこなかった自動読み取り機を今回使用し、事務従事者を減らしたこと、開票の際に各係の配置を広めに取ったこと、また、開票立会人の間隔を広くしたこと等により、移動距離が拡大したことがある。さらに、開票立会人の方からも熱心な質問を受け、丁寧に点検いただいたことも理由の一つに挙げられる。今後の対策として、当面は、新型コロナウイルスの感染症対策を行いながらの選挙になると思われるので、各係の配置や動線を工夫することにより、事務従事者の減少による影響を少しでも抑えたいと考えている。また、開票立会人に対する事前説明会の際に、開票終了予定時間をお伝えするなどして、円滑な開票となるよう努めたい。

- 県知事選挙の開票事務が遅れることは他市町村にも迷惑がかかることから、しっかりと対策をお願いしたい。(要望)

【令和3年度の税収見込みについて】

- 令和3年度税収見込みと3年度予算に与える影響は。
- △ 令和3年度の税収については、新型コロナウイルス感染症の影響による企業業績の悪化、そして3年に1度の土地家屋の評価替えがあり、個人市民税、法人市民税、固定資産税で落ち込む見込みであり、税収としては、令和2年度当初予算に比べ約15億円減少し、約240億円程度になると見込んでいる。税収減については、地方交付税制度により、その75%が措置されることとされており、実質的な影響は4分の1程度となるが、厳しい状況であることに変わりはない。また、地方交付税の財源となる国税4税の所得税、法人税、酒税、消費税についても、大幅に減収する見込みとなっており、地方一般財源総額の確保のため、交付税制度を補完する臨時財政対策債の発行額が大きく伸びると見込まれている。この臨時財政対策債については、償還に必要な財源を全額、普通交付税で補填される仕組みになっているが、地方債であることには変わりはなく、財政健全化緊急プログラムに取り組んでいる本市としては、しっかりと管理していく必要があると考えている。厳しい税収見込みの中であっても、必要な事業を着実に実施できるよう、引き続き財源確保に努めたい。
- 約15億円の減収見込みということだが、新型コロナウイルス感染症に関する予算をしっかりと確保するとともに、他の事業の縮小により、市民サービスが低下しないよう、しっかりと取り組んでいただきたい。(要望)

【学校給食時に使用しているダンボールパネルについて】

- ダンボールパネルの撤去に向けた現状は。
- △ マスクを外す食事中が感染のリスクが高まることから、飛沫飛散を抑える手だてとして、給食時のみにダンボールパネルを使用してきた。令和2年10月の本市の感染状況、また、児童生徒も給食時には私語をしないで食事をする生活習慣が身につけてきたことから、飛沫飛散防止パネルは一定の役割を終えたものと判断し、高岡厚生センター、医師会、薬剤師会とも相談の上、市内小・中・義務・特別支援学校において、10月末をもってダンボールパネルを外すこととした。なお、市内中学校1校では、以前に感染者が出たこともあり、しばらくの間はパネル使用を継続する。また、保護者の要請に応え、児童の健康上の理由により、小学校全校で1学年、また、中学校、特別支援学校それぞれ1校で、個人のダンボールパネル使用を継続していると報告を受けている。
- 撤去したダンボールの処分方法は。
- △ 医療廃棄物でないことを高岡厚生センターに確認し、通常の資源回収等で処分できるということで、例えばPTAの資源回収や業者の引き取り等により処分した。その際、個人情報特定されることがないように、児童生徒の名前や絵を消すなど、最後までしっかりと処分することを各校にて対応している。
- 今後の感染状況に応じて、再度飛沫飛散防止パネル設置の考えはあるのか。また、その際は、ダンボールパネルなのか、アクリルパネルなのか。

△ 感染状況に応じて、パネル設置の必要性は検討したいと考えるが、現時点で明確な答えはない。また、アクリルパネルにすると多額の費用が発生するため、実施可能な範囲内で、最新の知見等も十分に把握しながら検討していきたい。

【学校のエアコン設置について】

○ 普通教室のエアコン設置は、高く評価する。特別教室や災害時の防災拠点となる体育館にエアコンを設置すべきと考えるが、国の補助制度を活用して設置を検討しては。

△ 現在、学校の再編統合を進めており、教育環境の整備に財源確保が必要になることから、当面は難しいと考えている。国の方針があり支援があれば、相談させていただきたいと思うが、優先度を十分検討しながら進めたい。

○ 特別教室や体育館における空調整備について、国の補助制度はあるのか。

△ 補助制度はある。

○ すぐに整備することが難しいことは理解したが、災害が頻発している昨今の状況も踏まえ、ぜひ、体育館のエアコン整備について検討をお願いしたい。（要望）

【小型バスの導入について】

○ 地元負担が発生し導入がなかなか進まない地域バス・地域タクシーの導入方針を見直し、市が責任をもって費用負担するとともに、交通事業者に委託して運行するための小型バスなどを令和2年度の冬から導入しては。

△ 自動車検査登録情報協会等の調査によると、過去5年で自家用車の世帯あたりの普及台数が富山県は全国2位となっている。また、1世帯あたりの自家用車所有台数も全国平均を上回っている。加えて、本市の総合交通戦略の中間評価やアンケート調査の結果から車を所有し運転できる70歳以上の高齢者の人数が年々増加していることが分かり、公共交通利用にシフトしていない状況が推察される。このため、本市では、免許返納等で車を運転することができなくなった高齢者の方々が移動困難とならないよう、既存路線の維持に努めるとともに、将来に向けて地域の足を守るため、地域バス、地域タクシーの導入に向け取り組んでいる。その導入に当たっては、地域の事情に応じた運行形態などについても地域のご意見を伺いながら、一緒に考えていきたい。

○ 80歳を過ぎても元気な方は多い。一方で免許を返納し、車が無いので外に出るのが不便であるといった声も聞く。地域バス、地域タクシーの導入が進んでいないことも課題であり、市が責任を持って、小型のものでもよいので、可能な地域から導入してほしいと考えるが、見解は。

△ 個人の事情に応じたオーダーメイド型に対しては、タクシーや福祉系のサービスもある。市としては、地域の方々と、どのような形で公共交通を支えていけるかという視点で、お話させていただいており、個々の事情に応じた移動サービスについては、個別に相談いただければ、対応可能な事業者をご紹介することもできると考えている。

○ アンケート調査とは。

△ 高岡市総合交通戦略の見直しに向けた交通実態に関する市民アンケートである。

取りまとめ次第、その結果をお伝えしたいと考えている。

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

総務文教常任委員会 当局説明員（16名）

市長政策部長	鶴谷 俊幸	教育長	米谷 和也
市長政策部次長 都市経営課長・広域連携推進室長	久郷 聡	教育次長・参事	杉森 芳昭
文化創造課長	寺井 知恵	教育次長 学校教育課長・教育改革推進室長	杉山 智充
総合交通課長	今方 順哉	教育総務課長	中保 哲憲
総務部長 選挙管理委員会事務局長	二塚 英克		
総務部次長	戸田 龍太郎		
総務部次長・参事 財政課長	長久 洋樹		
総務課長	上森 智美		
総務課 危機管理室長	割田 一郎		
人事課長	長谷川 聡		
管財契約課長	澤田 剛章		
納税課長	柴野 泰彦		